

健康診断図

17 武庫川上流 (曲がり付近)

保全 県下で、唯一確認されている水際の植生分布地。



河川の様子

12 羽束川上流部 (小柿～後川下)

保全 河道の蛇行が顕著で、水辺には、随所で自然林・二次林が接する。希少な魚の生息地。

課題 取水による減水区間で、魚類・底生動物の個体数が少ない傾向にある。魚道の無い落差の大きい横断工作物が点在する。

13 羽束川上流部 (後川下～龍坊)

保全 本水系ではもっとも上流域らしい川相で、河道の蛇行が比較的顕著。夏季水温が低い。県南東部では屈指のオオサンショウウオの多産地。



河川の様子

課題 魚道の無い横断工作物が散在し、オオサンショウウオの移動への影響が懸念される。上流部としては、浮石率が低い傾向にある。

18 波賀野川・天神川

保全 これらの支川からの冷たい水の流入は、希少種がすむ本川の水温上昇を抑制する効果があると推測される。

20 真南条川

課題 上流部は、低水護岸率がとくに高い。浮石率が低く河床が固定化傾向にあるもよう。とくに、上流部において、強い濁りが頻繁に認められた。

15 青野川 (青野ダム流入部)

保全 青野川が千丈寺湖に流入する場所。広大なヤナギ林や、多様な抽水植物群落が発達している。

14 太多田川・名塩川・船坂川

保全 船坂川は、随所に自然林・二次林と接する水辺がみられる。

課題 太多田川・名塩川は、魚道の無い落差の大きい横断工作物が集中する。多くの地点で、強い濁りが高い頻度でみられた。太多田川・名塩川は、底生動物の種数が目立って少ない。

10 内神川・沢谷川・平谷川・池尻川・相野川・大池川

課題 コンクリート3面張り(内神川・沢谷川・池尻川など)、横断工作物が高密度で分布(平谷川)、低水護岸率が高い(平谷川)、水質が汚濁傾向(内神川)、強く濁る・頻繁に濁る(全支川)、高水温(池尻川・内神川・相野川)、大型糸状緑藻の繁茂(池尻川・内神川)など、環境悪化を示す結果が非常に多い。

09 武庫川中流部 (三田市内)

保全 上流部とあわせて、県下でもっとも長い区間にわたって連続するタナゴ類の生息地。

課題 三田市街を流れる区間で、低水護岸率がきわめて高く、河川形態も単調。数十年前と比べて、ホタルの減少を指摘する声が多い(聞取)。



高水敷が広く整備される

08 有馬川水系

課題 横断工作物による連続性阻害、河川形態の単調化、河床の固定化(浮石が少ない)、大型糸状緑藻が繁茂、ヨシや草の増加と河床の汚れ(聞取)、水質汚濁、強い濁り、高水温、流量減少(有馬川中下流部)など、環境の悪化を示す材料が非常に多い区間。底生動物の種数も顕著に少ない地点が多い。

04 逆瀬川・小仁川・仁川

課題 いずれの支川も横断工作物が高密度で分布する。表流水が無くなる時期がある。仁川は、夏季水温が高く(35℃以上)、底生動物の種数が目立って少ない。

03 武庫川下流部 (阪神武庫川駅～宝塚付近)

保全 県下で唯一、カワラサイコが優占する礫原草原が分布する。

課題 高水敷の整備が進み、低水護岸率が高く、河川形態も単調。甲武橋より下流側では、灌漑期に流量が減少する。多くの地点で、大型糸状緑藻が繁茂し、聞取では、河床の汚れを指摘する人が多い。下流域としては魚類相が貧弱。

02 武庫川下流部 (武庫大橋下流の横断工作物)

課題 比高1mで魚道があるが、堰直下のタタキ部水深が浅い。アユが堰の下流側に溜まる傾向がある。

01 武庫川河口部

課題 低水護岸率が高い単調な水辺。汽水性の魚類や底生動物は貧弱。

16 青野川水系

保全 黒川下流部や、青野川上流部に希少な魚類が生息する。

課題 青野川・黒川ともに改修が進み、河川形態が単調化する傾向にある。青野川上流部は、低水護岸率が高い。黒川では、浮石が少なく河床が固定化傾向にあるもよう。上流部では大型糸状緑藻も繁茂する。河床がツルヨシで覆われる場所が目立つ。

19 武庫川上流部 (相野川合流～南矢代付近)

保全 県下で、希少な水生生物(特に絶滅危惧種)がもっとも集中してみられる。上流部に位置するにもかかわらず非常に緩勾配で、横断工作物がほとんど無い。曲がりから上流は低水護岸が入っており、随所に自然林・二次林と接する。



武庫川上流

課題 古森～藍本にかけては、“名前のある淵”の多くが消失しており、河川形態が単調化している。浮石が少なく河床が固定化傾向にあるもよう。流量の減少を感じている人も多い。

11 羽束川中流部・末吉川 (木器～小柿付近)

保全 希少な魚類が生息し、水系内でアユ釣りの漁場はこの付近に限られる。

課題 河川形態が単調になりつつあり、数箇所の“名前のある淵”が消失した。末吉川上流部は3面張り。全般的に、浮石率が低く、河床が固定化傾向にあるもよう。



河川の様子

07 波豆川水系

保全 波豆川下流部は、魚類や貝類などの希少種が分布する。

課題 波豆川上流部は、横断工作物の密度が非常に高い。佐曾利川上流部はコンクリート3面張り。千刈水源池は外来魚の巣窟となっている。

06 武庫川中流部 (武庫川渓谷)

保全 県下でも有数の人為的改変が少ない区間。県下最大級のサツキ群落をはじめとする希少な植生が生育する。“名前のある淵”を含む大きな淵がたくさん残っており、すぐれた河川形態を有する。地形・地質・自然景観の面でも貴重な場所。



武庫川渓谷

課題 渓谷部のわりに浮石が少なく、河床に付着物が目立つ。降雨後に、非常に強い濁水が観察された。魚類・底生動物は、上下流と比べるとやや貧弱。

05 天神川・天王寺川・大堀川

課題 天神川の大半・天王寺川の上流部は、コンクリート3面張り。いずれの支川も水質は汚濁傾向。多くの地点で、大型糸状緑藻が広く河床を覆う。



河川の様子

全体区分

- 各調査結果を総合的に判断・整理したゾーニング

魚類・底生動物の現地調査地点

- 調査地点

横断工作物の確認位置(水面比高0.2m以上)

- 魚道あり
- 魚道なし

回遊種の確認上限

- 近年の確認上限
- 過去の確認上限

聞取調査による名前のある淵の現状

- 無くなった
- 浅くなった / 狭くなった
- 変わらない
- 不明

植生から見た流域区分

- ツルヨシ・ネコヤナギ型
- 移行帯
- オギ・ツルヨシ型
- 感潮域

予察調査による河川環境の記録

- 課題が見つかった箇所